

J-STAGEを通して学協会のサポートをしています。

科 学技術情報発信・流通総合システム「J-STAGE」(<http://www.jstage.jst.go.jp/ja/>)は、国内の学協会が発行する学術論文誌の電子ジャーナル出版を支援する、国内最大級のプラットフォームです。Webを通じて、日本の研究成果をいち早く世界に発信・流通させることは、国際貢献のみならず、日本の科学技術の発展においても欠かせません。

私たちは電子ジャーナル公開用のシステム・サービスを提供しています。学協会は、学術論文誌の電子データを作成、アップロードすることで、J-STAGEが備える多彩な電子ジャーナルの機能を利用できます。こうして、学協会が自主運用により、電子化したジャーナルを公開できる仕組みです。

新たにジャーナルを電子化する場合は、私たちが学協会誌の編集委員の方と実際にお会いして、ヒアリングをしながら、電子公開までのサポートを行います。現在、J-STAGEでは約750誌の電子ジャーナルが閲覧可能で、今後さらに増える見込みです。

ジャーナル公開後も、学協会へのヒアリングや、継続的なサポートを行います。ニーズを把握することで、J-STAGEをより使いやすくブラッシュアップするためです。たとえば、論文の二重投稿や盗用に困っているという学協会の声に対応して、J-STAGEで



知識基盤情報部電子ジャーナル担当
主査

青山幸太 (36) あおやま こうた

●業務の内容

J-STAGEのシステムマネジメントや機能改善、利用価値の向上などに関する業務全般を行い、学協会のほか、国内外のユーザーの問い合わせにも対応する。来年実装する新システムの開発も担当している。

●Background

新潟大学大学院人文科学研究科(人間学専攻)修了。専門は科学史・科学基礎論。情報系専門学校・大学の講師、教員職を経てJSTに入社。現在5年目。入社2年目から現在まで電子ジャーナルを担当。

は現在、剽窃(ひょうせつ)検知サービスなどの提供の準備をしています。さらに2012年には、システム全体を大幅にバージョンアップする予定です。

また、J-STAGEを利用する学協会同士が交流する意見交換会やセミナーの開催、弁護士を招いての著作権に関する質問会や個別相談会を開くなど、システム以外の面からも学協会のサポートをしています。

全世界から閲覧できる電子ジャーナルは“学協会の顔”であると、私たちは考えています。国内外の研究者に“顔”を見せることは、論文情報を必要とする方々の助けになるだけでなく、学協会の価値の向上にも役立ちます。

J-STAGEを広く有効活用してもらえるよう、認知度の向上に努めることも重要です。一昨年には、ミラノで開かれた国際図書館連盟(IFLA)の年次会合で、J-STAGEの展示やプレゼンテーションを実施しました。世界中の図書館関係者が集まる場でJ-STAGEを紹介することで、各国の図書館のホームページからリンクされ、海外からの利用者の増加が期待できます。このほか、Googleなどの大手検索サイトや国内外の各種Webサービスとの提携も行い、研究者はもちろん、より多くの人に使いやすい学協会電子ジャーナル公開システムの構築に取り組んでいます。



左:J-STAGEを利用する学協会同士が交流する意見交換会。中:J-STAGEのトップ画面。毎月100万件を超える論文がダウンロードされている。右:J-STAGEフェアでは、世界最大級の電子的学術情報リンクサービスである「CrossRef」から講師を招いた。

TEXT:Office彩蔵